令和8年1月29日　薩摩青雲丸便り　第1号

薩摩青雲丸

指導教官

令和7年度　第3次航海

薩摩青雲丸本科生18名を乗せ実習スタート！

出港式・枕崎出港

対面式

一月十九日、海洋科海洋技術コース十八名、専攻科海洋技術科六名、専攻科機関技術科七名、計三十一名の実習生が薩摩青雲丸に乗船しました。

一月二十一日の出港式では、実習生を代表して肥後愛輝君が薩摩青雲丸で実習ができることへの感謝の気持ちを胸に、「多くの知識・技術を学び、苦しいこともクラスで協力して乗り越えていきたい」と抱負を述べてくれました。

一方で本船は、大寒波の影響により枕崎出港を延期し、二日後の二十三日、天候良し、出港準備よし、しばしの別れを惜しみながら、寒空の下、保護者・学校関係者の盛大な見送りを受ける中、遠洋航海へ向け出港しました。出港後は進路を南へ取り、季節風の後押しを受けながら漁場となる第五海区へ向けて乗船実習がスタートしました。

操業スタート！

出港後二日程度は好天に恵まれ、船酔いもなく順調にいくかと思いましが、三日目より徐々に時化となり、本科生の半数は船酔いに苦しむこに…。

その中、一月二十六日、北緯十九度・東経一二八度、フィリピン北東沖にてマグロ延縄実習がスタートしました。実習生は日課表に沿って、投縄班、揚縄班、食当班の三班に分かれ実習に取り組みます。

操業初日、海況は平均風速十一メートル前後の時化模様、時折、デッキに波しぶきが揚がる中、谷本二等航海士の「安全第一に、全員で協力していきましょう。」の掛け声とともに揚縄作業がスタートしました。本科生は慣れない作業に先輩から手ほどきを受け作業に取り組んでいました。

初日の漁獲はキハダマグロ・ビンナガマグロ併せて約三十本と幸先よいスタートとなりました。

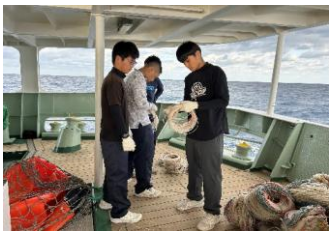
操練

→一月二十四日、操練(避難訓練)が行われました。放水・泡消火器の取り扱い訓練、救命設備の取り扱い説明を受けました。

作業風景

「食料積込み」

一月二十日、六十日分の食料を積み込みました。業者は岸壁までしか持って来てくれません。あとは、全員で協力し一つ一つ手渡しで食糧庫へ運び使用順に仕分けて保管します。総員五十二名の六十日分、相当な量です。本科生はその多さに唖然としています。

「甲板作業」

実習生はいくつかのカテゴリー分けられた日課に沿って実習を行っていきます。その一つが甲板作業になります。漁場に向け移動中、マグロ延縄実習の準備をします。乗組員と一緒に船首、船尾の甲板を操業(マグロ延縄)仕様に変えていき、余った時間を使って、ブラン括り(釣針のついた仕掛け)の練習をします。操業では、このブラン括りが実習生の作業になります。軍手越しの感覚は素手とは違い悪いですが、専攻科生に指導を受けながら一生懸命頑張っています